

1. 実況上の着目点

① 500hPa 5760～5820mの強風軸に対応する前線が華中～本州の南岸付近～日本の東にのびている。東シナ海～日本の南で激しい雨や非常に激しい雨を解析し、沖縄本島でも非常に激しい雨を解析。奄美地方の海上では活発に発雷。

② アムール川中流域の500hPa 5280m以下の寒冷渦に対応する低気圧がアムール川下流域を北東進。寒冷渦を回る500hPa 5580m付近のトラフに対応する低気圧は18日9時まで日本海で不明瞭となったが、日本海北部から中部にのびるシアーラインが北～東日本の日本海側に接近している。

③ ①の前線や②の低気圧やシアーラインの周辺では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなっている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の前線は、18日は南西諸島～伊豆諸島付近に停滞し、20日にかけては南西諸島～日本の南に停滞。前線に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。沖縄本島地方では18日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒。九州南部～南西諸島と伊豆諸島では19日にかけて土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、20日にかけて落雷、突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

② 1項②のシアーラインが18日は北～東日本を通過する。また、1項②の寒冷渦を回る500hPa 5520m付近で-24℃以下の寒気を伴うトラフが19日は北日本を通過し、500hPa 5520m付近で-24℃以下の寒気を伴う別のトラフに対応する低気圧が19日夜までに日本海西部で発生して20日にかけて北日本を通過し千島近海へ進む。上空の寒気、低気圧やシアーラインへ向かう下層暖湿気、日中の昇温の影響で、大気の状態が非常に不安定となる所がある。北～東日本では20日にかけて、西日本では20日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

③ 1項②のアムール川下流域の低気圧は20日にかけて停滞する。この低気圧や2項②の低気圧やシアーラインの影響で気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなる所がある。北～東日本では20日にかけて、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

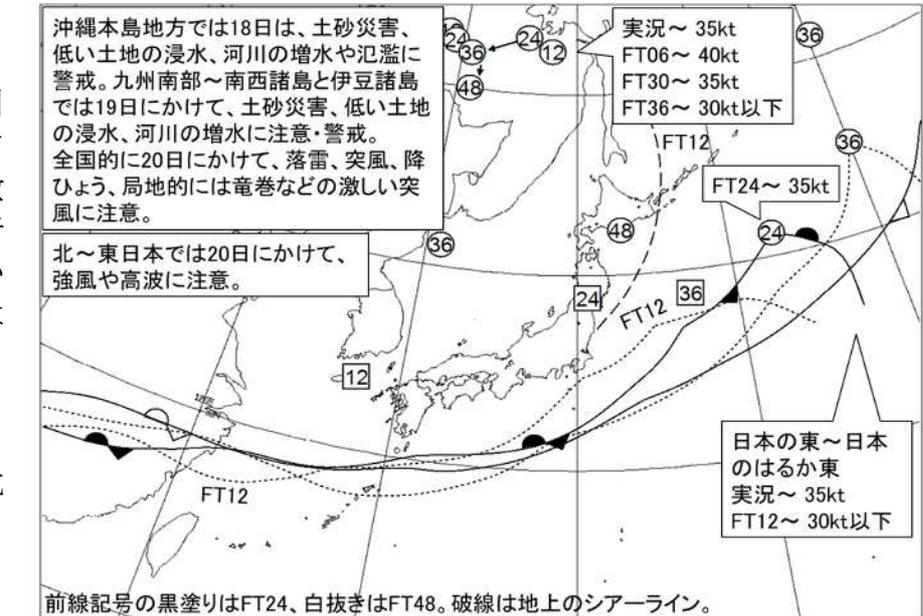
総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】

① 雨量(18時からの24時間)：九州南部・奄美120mm。

② 波浪(明日まで)：北海道・関東・伊豆諸島3m。

5. 全般気象情報発表の有無



主要じょう乱解説図